

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2010年度 第3号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室内

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://keles.web.infoseek.co.jp/> 2011年3月14日発行



巻頭言：学会の皆様へのお願い

関西英語教育学会副会長 鈴木 寿一（京都外国語大学）

この数年間で教育現場にも「数値目標」が導入されるようになりました。目標をもつこと自体はよいことですが、短期目標ばかりになると非常に危険です。例を挙げてみましょう。

中・高生で塾や予備校に通うのは今や当たり前で、小学校中学年からの塾通いも増えています。高校段階では、公立学校でも、「難関大学現役合格〇〇名」という数値目標が掲げられ、その実現に向けて、入試に直結する授業が行われる傾向が強くなってきました。教員をしている私の教え子や会員の高校の先生方から、たとえば、「入試に出ない音読など止めて、全文和訳するように管理職や先輩から言われました」というような話を聞くことが多くなりました。生徒や保護者も、また、学校も短期目標に振り回されています。

また、最近よく行われる授業アンケート結果について、「君の担当クラスは他の先生の担当クラスより、予習の時間が少ない。予習をもっとさせるように」と管理職から言われた方もおられます。「予習としては、教科書本文の内容に関する質問に答えることを予習として課しています。浮いた時間で、復習として音読などを課しています」と答えると、「予習の方が大事。本文をノートに書き写させ、全文を和訳させて、予習の時間を増やすこと」と言われたそうです。（ちなみに、そのアンケート項目には、復習の時間について尋ねる項目はなかったそうです。同様のことを他の先生方からも聞いています。アンケート結果は公表されるため、予習時間を増やすことが第一になり、もっとも大切な学力向上は二の次になっています。学力向上を真剣に考えるなら、復習の時間も尋ねるべきですし、

予習復習が適切に行われているか、その中身を調べる項目も必要です。貴重な授業時間を使って行うアンケートは、「報告のため」ではなく、「現状改善のため」に行われるべきものです。

他にもこのような例はたくさんありますが、いずれも、生徒や保護者だけでなく、学校まで、近視眼的な数値目標にしか目が向かないことを示すものです。

この近視眼的な数値目標偏重時代であるからこそ、適切な短期目標だけでなく、適切な中長期目標や展望をもった教育を実践できる教員が必要です。しかし、一人一人の力だけではそれは非常に困難です。各学校での仲間づくり、勤務校や校種を超えた仲間づくりも必要です。そのための場として、関西英語教育学会は日本英語教育学会関西支部の時代から40年以上にわたって、その役割を果たしてきましたし、今後もさらにその役割を果たしていかなければなりません。そのために、学会としても、学会の活動をさらに発展・充実させるために、現在いろいろなことを、幹事会でも検討しております。

そこで、会員の皆様にはお願いです。本学会が開催する年間行事はたくさんありますが、今年はそれらの行事に、昨年より1回でも多くご参加くださいますようお願い申し上げます。その際、本学会の会員でない同僚の方や知り合いの方をぜひお誘いの上、ご参加ください。そうすれば、職場内外での仲間づくりという意味でも、その方々の自己研鑽、そして、より多くの生徒や学生に質の高い教育を提供することにつながります。また、一人でも多くの方に、研究発表や実践報告

をしていただきたいと思います。その研究成果や報告は、お聴きになった方の授業改善のヒントになるだけでなく、勤務校の生徒や学生、管理職や同僚を説得することにも役に立ちます。

まずは、6月4日(土)に関西大学を会場に開催される2011年度(第16回)研究大会でのご発表、ご参加、同僚や知り合いの方へのお誘いをお願い申し上げます。次第です。

関西英語教育学会 2010年度K E L E S セミナー報告

第20回セミナー(大阪・兵庫地区)

開催日: 2010年11月28日(日)

会場: 大阪教育大学・天王寺キャンパス

第20回セミナーは、大阪教育大学を会場に、「あたらしい英語リーディングの授業をめざしてー「読む」力を育てる」をテーマに開催されました。

「ことばと若者」を取り巻く問題が多く存在する中、読み聞きした内容・考えを、感想や賛否、及びその理由を示せるように、的確に理解できるようなことばの能力の養成が求められています。横川博一先生(神戸大学)は、「これからのリーディング指導の方向ー読む力をどう育てるかー」と題して、このような状況下で、リーディングの授業(活動)にどのようなことが求められているか、どのようにリーディングの授業を展開させるか、という全体的な提案をされました。外見的には「静」の読むという活動が、学ぶ者の心の中で「動」になるような授業ができるのか、まさに心(頭)を動かされるトークでした。

英語を学習する、あるいは英語の文章を読んで理解するには、ある程度の語彙力を持っていることが必要不可欠です。吉田晴世先生(大阪教育大学)は「なぜ英語が読めないのか?ー教室内外のリーディング指導のあり方ー」の中で、語彙力をつけるための活動、あるいは身につけた語彙力をもっと大きな単位(チャンク)で使えるようになるための活動として、フレーズ・リーディング、30秒間音読、多読などが紹介されました。学習者にしっかり声を出させるための、パワーポイントを用いた音読活動の行い方など、具体的アイデアが豊富に含まれたご発表でした。

続く、高見砂千先生(大阪市立大正東中/大阪市教育センター)は「中学生と「楽しくたくさん読む!」ー逆向き設計による「読むこと」の指導の工夫ー」と題して、また、平尾一成先生(大阪府立寝屋川高校)は「アウトプット活動を伴うリーディング指導」と題して、中学校や高等学校でのあたらしいリーディング指導の形を日頃の実践例を踏まえて示してくださいました。高見先生は、ゴールを設定してどう授業を組み立てるべきかを視点から、たくさん英語で読ませる具体的な指導例を示されました。中学校での多読指導の試みはまだまだ少ないので、大変興味深いものでした。平尾先生は、SELHiでのご経験に基づき、まず、現状分析として「説明」=「理解」という誤解があること、コミュニケーション活動の形式のみに注意が払われ、その量と質に対する指導が不十分にしか行われていないことなどを指摘され、新学習指導要領を踏まえて今後のリーディング指導のポイントを指摘されました。現状の問題点を解決するために、アウトプット活動(とりわけストーリー・リプロダクション)を設定したリーディング指導の実践を教材例とともに報告されました。生徒の実態を踏まえた地に足の着いた実践は、随所にきめ細かな配慮がなされており、高校のリーディング指導のひとつのあるべき姿をご呈示いただいたと思います。誠に学ぶことの多いご発表でした。

最後に、泉恵美子先生(京都教育大学)の「読解スキルを高めるタスクのあり方」と題するトークでは、まず、泉先生がご自身の授業でも取り入れられておられる読解ストラテジーを利用した指導について説明されました。次に、状況モデルの構築を促す様々なタスクに関する継続的なご研究の詳細をご発表くださいま

した。最後に大学で実施されている発信能力を意識したリーディング指導について紹介され、多くの研究と実践を含むご発表の上に、さまざまな読解ストラテジーとそれを生かした活動は、即実践可能なものも多く、興味深いものでした。

報告者：橋本 健一（近畿大学）・高田 哲朗（京都教育大学附属高校）・平井 愛（京都精華大学）

第 21 回セミナー（京都・滋賀地区）

開催日：2010 年 12 月 23 日（木・祝）

会場：京都教育大学

第 21 回セミナーは、京都教育大学を会場に、約 50 名の参加者を得て行われました。今回のテーマは、「英語教育とストラテジー：小中高代の授業にどう生かすか」でした。最近では、英語教育でも「ストラテジー」ということばがよく使われますが、学習科学および第二言語習得の分野でも、とくに「学習（者）ストラテジー」の研究が盛んになってきています。

まず、この分野のエキスパートのお一人、若本夏美先生（同志社女子大学）による「教室に生かす英語学習ストラテジー」と題する講演では、ストラテジーに関して日頃みんなが抱えている疑問から出発し、これまでの研究の流れを授業にいかすにはどうしたらよいかという視点で、とてもわかりやすく示してくださいました。学習活動や言語活動の中で利用できるストラテジーを、1 回の授業で 1 つ取り入れる、学習者自身にストラテジー使用を意識させることなどのご提案は大変興味深いものでした。

それを受けて、藤村まゆみ先生（大阪府箕面市立第四中学校）、滝澤伊都子先生（元滋賀県立大津高等学校）は、それぞれ中学校や高等学校での授業でどうストラテジーを生かすかという視点で、ご自身の研究や授業での実践に基づく様々なデータを示され、ワークショップも交えて、参加者も一緒に手を染めながら楽しくストラテジー指導がどのようなものかを体験しました。

次に、泉恵美子先生（京都教育大学）は「コミュニケーションストラテジーの指導と評価」と題して、コミュニケーション能力とは何か、コミュニケーションストラテジーをどう指導し、いかに評価するかについて、

新しい学習指導要領も踏まえ、また実際の指導に基づくデータ、さらには、コミュニケーションストラテジーの指導シラバス作成の試みについて、理論と実践の両面からお話してくださいました。

最後に、講師の先生方全員とフロアとの協議がおこなわれましたが、いつにも増して活発なやりとりが展開されたことは大変印象的でした。「学習（者）ストラテジー」という分野は、第二言語習得ないしは応用言語学の研究分野のひとつですが、単に研究の対象にとどまるのではなく、授業や学習者にもっとも近い研究領域であると言えます。そうした意味でも、ストラテジー研究の今後の研究成果に大いに注目したいものです。

報告者：横川 博一（神戸大学）

第 22 回セミナー（奈良地区）

開催日：2011 年 1 月 29 日（土）

会場：天理大学

第 22 回セミナーは、1 月 29 日（土）に、天理大学英語教育研究会、JALT Nara Chapter、NET Forum と合同で開催され、教員、学生など、約 150 人が参加しました。今年度の奈良地区セミナーは、「世界に繋がる英語教育」をテーマとして、技能習得を超えた英語教育の可能性を探りました。

発表 1 “Connecting the Dots” では、廣島美和先生（高田市立高田中学校）から、「開発教育」を取り入れた英語授業の取り組みが紹介されました。JICA の教員海外研修で訪れたマレーシアでパーム油プランテーションが環境に与える影響について学ばれた内容を、身近な題材にして英語授業に取り入れる活動が報告されました。

発表 2 「国際理解を取り入れた英語教育」では、吉川佳靖先生（奈良県立二階堂高校）と山本真司（天理大学）から高大連携の取り組みの報告を受けました。インドネシア、フィリピンなどで現地の子どもたちと交流を深めてきた学生たちが、高校の英語の授業に参加し彼らの体験を高校生に伝えています。それを受けた高校生たちが国際交流について考え、英語で発信する活動が報告されました。

発表 3 “Global Issues and You” では、Steve Cornwell 先生（大阪女学院大学）より、グローバル・イシューを英語の授業に取り入れた 4 技能の統合を目指す実践が報告されました。授業に導入できる言語活動の例を詳しく紹介いただきました。

最後は、森住衛先生（桜美林大学大学院教授、前大学英語教育学会（JACET）会長）に「新学習指導要領を超えた英語教育の展望」と題して講演をしていただきました。ご講演では、これまでの学習指導要領の特徴が詳しく述べられ、新学習指導要領に不足している

もの、およびこれからの英語教育に求められるものについて力強い提起がなされました。森住先生は、日本の英語教育は、「役に立つ英語教育」から「ためになる英語教育」へと転換しなければならない、そのためには技能偏重ではなく知識や観点を連動させた英語教育を行い、認知力や健全な言語観を養っていかねばならないと締めくくられ、参加者全員が日ごろの授業を点検する良い機会となりました。

報告者：中井 英民（天理大学）

第 14 回卒論修論研究発表セミナー報告

開催日：2011 年 2 月 12 日（土） 会場：関西国際大学・尼崎キャンパス

第 14 回卒論修論研究発表セミナーが、2011 年 2 月 12 日（土）に関西国際大学・尼崎キャンパスにおいて開催された。

関西国際大学の後援を得、大学英語教育学会関西支部および外国語教育メディア学会関西支部の共催にて開催された今回のセミナーでは、22 件の卒業論文と 23 件の修士論文の研究発表が行われた。また、スペシャル・トークとして、関西学院大学教授の門田修平先生をお招きし、「(私的) SLA 研究とのつきあい方」というタイトルで、講演をして頂いた。当日は 155 名もの参加者があった。

卒業論文・修士論文の研究発表の発表者とタイトル一覧は、以下の通りである。

＊

午前の部 [卒業論文]

【第 1 室】コメンテータ：加賀田哲也（大阪教育大学）・福智佳代子（神戸海星女子学院大学）

1. 梅原みなみ（京都教育大学）
小学校外国語活動における文字指導の研究
2. 大江太津志（京都教育大学）
小学生の発音学習における模倣の効果
3. 山中淑堯（大阪教育大学）
小学校英語活動における語彙の認知的アプローチ
4. 藤井彩乃（大阪教育大学）
地域学習を取り入れた外国語活動

【第 2 室】コメンテータ：生馬裕子（大阪教育大学）・河内山真理（関西国際大学）

1. 林多恵子（京都教育大学）
CLIL の理念に基づいた小学校英語活動の提案 - 児童の知的好奇心を育むために -
2. 田淵由莉（京都教育大学）
小学校外国語活動におけるインタラクション及びパフォーマンス評価
3. 押田沙桜里（大阪教育大学）
小学校外国語活動における絵本を活用したストーリーテリング
4. 大江幸代（大阪教育大学）
「公立小学校における『イマージョン教育』の良さを生かした外国語活動」 - 他教科との関連を生かして -

【第 3 室】コメンテータ：吉田晴世（大阪教育大学）・沖原勝昭（京都ノートルダム女子大学）

1. 的野真帆（京都教育大学）
EFL リーディングにおける教師の発問の組み立て
2. 加藤有輝（京都教育大学）
EFL リーディングにおける状況モデルの構築と変容
3. 小峠勇拓（大阪教育大学）
英語教師 3 人のライフストーリー研究
4. 山本長紀（大阪教育大学）
大阪教育大学総合認識系における海外教育実習 - 小学校外国語活動を担う教員の養成を視野に入れて -

【第 4 室】コメンテータ：大和知史（神戸大学）・村田純一（神戸市外国語大学）

1. 稲田エマ（神戸市外国語大学）
日本人英語学習者による L/R の音響的特徴について
2. 生熊泰佳（京都府立大学）
バラク・オバマの演説における音声的特徴

3. 澤裕子 (京都府立大学)
『正則ニューナショナル第一リーダー独案内』にみる
明治 20 年代の日本における英語教育

4. 宮下静香 (大阪教育大学)
中国語を母語とする日本語学習児童の母語の影響と具
体的な指導方法への試み - 「の」の過剰使用に着目し
て -

【第 5 室】コメンテータ：泉恵美子 (京都教育大学)・
谷村緑 (京都外国語大学)

1. 浅野辰徳 (神戸市外国語大学)
テレビニュースにおける字幕翻訳の実態
2. 廣田尚哉 (大阪教育大学)
小学校外国語活動における ICT 教材の開発と活用
3. 村中恵里 (大阪教育大学)
教師のための Oral Introduction による効果的な
Pre-reading 指導の提案
4. 中村真 (大阪教育大学)
A thesis of reading process for junior high school students

【第 6 室】コメンテータ：山西博之 (関西外国語大学)

1. 津留天然 (大阪教育大学)
日本人大学生・高校生における学習動機の構成要素—
ビデオ視聴による自省を通じた分析—
2. 永露弘樹 (大阪教育大学)
What motivates or demotivates students to learn English
3. 鈴木雄太 (京都外国語大学)
On the effectiveness of reading strategies and learning
strategies of reading -Through analyses of the data from the
questionnaire-

午後の部 [修士論文]

【第 1 室】コメンテータ：住政二郎 (流通科学大学)

1. 山本宣生 (京都外国語大学)
評価を通じた動機付け要因の探究—高等学校でのアン
ケート調査に基づく分析—
2. 津田敦子 (兵庫教育大学)
Exploring self-regulated language learning among Japanese
senior high school students
3. 阪田昌樹 (神戸市外国語大学)
英語落語が生徒の英語発表に対する態度の向上におよ
ぼす効果

【第 2 室】コメンテータ：菅井康祐 (近畿大学)

1. 木村英子 (大阪教育大学)
ジャーナルを通じての教師の成長におけるリフレクテ
ィブプラクティスの役割
2. 谷本浩瑛 (大阪教育大学)
An English immersion program in a Japanese high school
3. 加賀奈穂子 (大阪教育大学)
An ideal model for the use of Japanese language by
homeroom teachers in elementary school English language
activities in Japan

【第 3 室】コメンテータ：中野陽子 (関西学院大学)・
平井愛 (京都精華大学)

1. 鳴海智之 (神戸大学)
日本人英語学習者の文処理プロセスにおける形態統語

情報の利用：眼球運動を用いた検討

2. 中川恵理 (神戸大学)
第二言語学習者の文産出プロセスにおける文法コード
化に関する研究：眼球運動測定による検討
3. 安藤京子 (関西学院大学)
L2 音声提示文の統語的曖昧性の解消におけるシャドー
イングの効果 - 日本人英語学習者への実証研究
4. 福島貴文 (関西学院大学)
The word neighborhood effects in processing visually
presented English words: An empirical analysis of EFL
learners in Japan

【第 4 室】コメンテータ：氏木道人 (関西学院大学)・
長谷尚弥 (関西学院大学)

1. 京極美慧 (神戸大学)
日本人英語学習者の言語熟達度とバイリンガルレキシ
コン—語彙性判断課題による検討—
2. 榊原啓子 (神戸大学)
Effects of proficiency, working memory and task on the
reading comprehension of Japanese EFL learners: A
psycholinguistic study based on eye movement data
3. 近藤嘉宏 (京都外国語大学)
Multi-Step Instruction に基づく Reading 教材作成
4. 秋本信 (大阪教育大学)
高校生における英語リーディングプロセスとリーディ
ングストラテジー

【第 5 室】コメンテータ：溝畑保之 (大阪府立鳳高校)・
西本有逸 (京都教育大学)

1. 宮本洋一 (関西学院大学)
パラレルリーディングは日本人高校生の英語の読解力
および聴解力を向上させるか
2. 原田かおり (関西大学)
日本人高校生を対象としたチャンキング指導と流暢さ
の関係
3. 平尾一成 (京都外国語大学)
The effects of oral reading practice on students' performance
in story reproduction
4. 中原加織 (大阪教育大学)
Communicative speaking instruction for junior high school
students

【第 6 室】コメンテータ：吉田信介 (関西大学)・
籾内智 (京都精華大学)

1. 近藤真之 (大阪教育大学)
Effectiveness of explicit grammar teaching integrated into
form-focused instruction in the EFL classroom
2. 川本祥也 (奈良教育大学)
PPP 授業と TBL 授業の文法指導における効果の比較検証
3. 稲垣宏行 (名古屋大学)
Focused direct corrective feedback with metalinguistic
comments と第二言語ライティングにおける正確性
4. 坪内徹 (京都外国語大学)
単語集による語彙学習指導は必要か - 単語集のみに出
現する語彙の大学入試問題におけるヒット率に関する
実証的研究 -

*

学部学生・大学院生らの卒論・修論の研究発表の後、門田修平先生による「スペシャル・トーク」が行われた。「(私的) SLA 研究とのつきあい方」と題されたトークでは、一般的に英語(あるいは外国語)学習において常識と思われていることの本当のところはどうなのか、という問いをきっかけとして、幅広い話題が提供された。そのような問いに対する答えを得るためには、第二言語習得が英語(外国語)の学習・教授法の研究だけでは不十分で、言葉の学習を可能にする仕組み、処理を明らかにする必要があるのではないか、という提案がなされ、第二言語処理・習得を研究するために用いられる道具立て、実験手法が紹介された。

また、第二言語習得研究は、中間言語システムを明らかにすることだけを目的にするものではなく、もっと一般的なレベルでの認知研究としての研究分野たり得ると述べられた。これは、第二言語学習者は、目標言語の自動化の程度が不完全である分、言語の熟達度に対応する形で、いかに言語にかかわる人の「こころの認知システム」が動き出すのかを調べるための、綿密で格好のデータを提供していると考えられるためである。例えば、言語のモジュール

性(言語が他の認知システムから独立しているか、一体化しているか)という問題に対しても、第二言語習得研究が多くを示唆を与えてくれる、という観点から、ご自身の言語観を展開された。

そして、学内外で多忙を極めておられる門田先生が、どのようにハイレベルな研究を続けておられるのか、その秘訣とも言える「おいしいお酒」(あるいは人それぞれにあるであろう、自分自身を弛緩させてくれる何か)の重要性について教えてください。

第二言語のリーディング、メンタルレキシコン、シャドーイングなどに関する著書・論文を多数出版なさっている門田先生の名声は関西圏のみに留まるものではないのだが、「近くにいなから遠い存在」と感じている学生も多くいたようである。第二言語の処理・習得研究のスペシャリストである門田先生が、どのようにご自身の研究と付き合っておられるのか。聞きたくてもなかなか聞けない「私的な」お話は、どのような立場の参加者にとっても、自身の日々の仕事や日常生活との関係を振り返るよい機会になったと感じた。

報告者：大和 知史(神戸大学)

橋本 健一(近畿大学)

学会事務局からのお知らせ

◆2011年度(第16回)研究大会 発表募集

2011年度(第16回)研究大会は、2011年6月4日(土)に関西大学・千里山キャンパスにおいて開催されます。

つきましては、英語教育にかかわる「ワークショップ」、「研究発表」、「事例報告」のご発表を募集いたします。応募期間は、2011年4月4日(月)～4月25日(月)までで、学会ホームページにてご応募いただけます。ふるってご応募ください。多くの会員の皆様のご発表をお待ちしております。

◆学会費納入のお願い

2011年度分の学会費は、2011年6月4日に開催される研究大会までに納入をお願いします。

また、2010年度分までの学会費が未納の方は至急納入をお願いいたします。年度末に刊行される学会紀要『英語教育研究(SELT)』第34号は、納入が確認され次第発送させていただきます。

【お詫びと訂正】前号のニュースレターの「2011年度役員一覧」の中で、「評議員(退任)」として藪内智先生(京都精華大学)のお名前が記載されておりますが、誤りです。訂正して、お詫び致します。